

水産研究所研究成果発表会開催

水産研究所は平成25年2月14日、岡山市のピュアリティまきびにおいて、研究成果発表会を開催した。この発表会は、水産業界関係者をはじめ広く県民に水産研究所が行う開発研究の成果の一端を紹介し、理解と関心を深めてもらうことを目的としたはじめての試みで、当日は漁業者及び漁業関係団体、縣市町関係職員、大学等教育機関のほか、一般県民22名を含む96名が参加し、口頭発表4課題、ポスター展示8課題の発表と活発な意見交換を行った。

口頭発表ではまず、水圏環境室 石黒技師が「漁場環境からみた児島湾の移り変わり」について発表した。児島湾は閉鎖的な内湾で、干拓によって漁場が減少した現在でも、漁業生産の場として重要な海域である。児島湾の現状とカキ殻を利用した底質改善の取組状況について紹介した。次に、開発利用室 清水研究員は「小魚を丸ごと使ってご当地すり身に」と題して、小型底びき網漁業で混獲、投棄される小型のシログチを丸ごとすり身にする技術の開発と、これを利用した揚げかまぼこの試作品の特徴を紹介した。会場からは新製品ができそうな期待がある、新鮮な魚が無駄なく手軽に料理に使える工夫は興味深いといった感想が聞かれた。また、資源増殖室 小見山専門研究員は「サワラ資源回復の取組と成果」について、激減した瀬戸内海のサワラ資源を回復させるため県が取り組んだ種苗生産・放流やその効果について紹介した。種苗放流はいつまで必要なのか、卓越年級群をどうやって保護すればよいのか等意見交換があった。さらに、内水面研究室 増成専門研究員は「コイヘルペスウイルス病を防ぐ」と題して、本県で過去に大量死が発生した児島湖でのその後のウイルスの保有状況、今後のまん延防止策について紹介した。

発表終了後、参加者からアンケートもいただいた(回

答数59名)。水産研究所の取組、海や魚のことがわかり興味深かった、是非次回も参加したいという回答のほか、各課題が県民生活とどのように関わっているのか説明が不足している、質問時間が少ない等のご意見もいただいた。

今回の成果発表会は、私たちにとっても貴重な経験となった。漁業だけでなく、豊かな海と恵みを取り戻すこと、その恵みを日常の食卓に生かしていく努力が大切であることを再認識した。水産研究所は開かれた研究機関を目指して、これからも漁業関係者や県民の皆さんからの意見に耳を傾け、海や川の環境と水産資源の有効な利用方策に関する様々な課題に取り組んでいくこととしている。最後に、当日参加していただいた皆様方、開催にあたりご協力いただいた関係各位にあらためてお礼を申し上げる。(開発利用室：萱野)



山野井所長あいさつ



ほぼ満席の会場



ポスター展示と意見交換